

※この記入例は、原単位を基準とした目標削減率を設定した場合のものです。

(様式1)

温室効果ガスの排出の抑制等に関する目標及び措置

記入例

計画期間		令和6年度～令和8年度			
温室効果ガスの排出の抑制等に関する事項	年度	措置の内容			
	6	蒸気配管やバルブ等の保温を実施（丸亀工場） 従業員に対する地球温暖化防止に関する研修（年間2回程度）の実施			
	7	（照明設備）工場建屋内のLED照明に人感センサーを設置 従業員にエコドライブに関する研修（年間1回程度）の実施			
	8	（熱源設備）排熱駆動型熱源機の導入 グリーン電力の購入			
温室効果ガスの吸収等	区分		目標年度（令和8年度） 二酸化炭素換算(t)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 森林の整備等		1 t-CO ₂		
	<input checked="" type="checkbox"/> 経済的手法の活用		70 t-CO ₂		
	グリーン電力証書の購入		70 t-CO ₂		
	グリーン熱証書の購入		t-CO ₂		
	オフセット・クレジットの購入		t-CO ₂		
	国内クレジットの購入		t-CO ₂		
	J-クレジットの購入		t-CO ₂		
	非化石証書の購入		t-CO ₂		
	合計		① 71 t-CO ₂		
温室効果ガスの排出の抑制等に関する目標	区分	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和8年度)	対基準 年度比 (%)	
	温室効果ガス 排出量	(二酸化炭素換算(t)) ② 17,509 t-CO ₂	(二酸化炭素換算(t)) ③ 15,100 t-CO ₂	86.2	
	<input type="checkbox"/> 差引排出量 A	(二酸化炭素換算(t)) ② 17,509 t-CO ₂	(二酸化炭素換算(t)) ③-① 15,029 t-CO ₂	85.8	
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位排出量 A/B	0.58 t-CO ₂ /百万円	0.46 t-CO ₂ /百万円	79.3	
	温室効果ガス排出 量と密接な関係を持 つ値 B	30,000百万円 (生産額)	33,000百万円 (生産額)	110.0	
目標設定 に関する 説明	生産量が増加する見込みだが、上記の措置により総排出量で約14%の削減を見込んでおり、原単位排出量で約21%削減の目標を設定する。				
特記事項	上記の取組み以外に地球温暖化防止のため、以下の取組みを実施予定 ・地域住民等との植林活動				

(注)

- 「基準年度」は計画年度の初年度の前年度とし、「目標年度」は計画期間の最終年度とすること。
- 「温室効果ガスの吸収等」欄については、これらの措置を実施するときは該当する□にレ印を記入し、「二酸化炭素換算(t)」欄に値を記入すること。
- 「温室効果ガスの排出の抑制」欄については、削減目標を立てるに当たって指標とするものを「区分」の欄のいずれか選択し、該当する□にレ印を記入すること。この場合において、「原単位排出量A/B」を選択した場合においても「差引排出量A」の値は記入すること。
- 「目標設定に関する説明」欄には、目標年度における温室効果ガス排出量(原単位排出量)を設定するにあたっての前提条件や、想定した削減策等、どのような考えに基づき温室効果ガスの排出量の抑制等に関する削減目標を設定したのかを記入すること。
- 「特記事項」欄には、「温室効果ガスの排出の抑制等に関する事項」の実施する年度毎に記入したもののほかに、地球温暖化の防止のために取り組むこと等を記入すること。